

	評価項目	自己評価			学校関係者評価
		取組状況(成果と課題)	評価	次年度への改善策	
授業が熱くなる学校	授業改善推進プランに基づき、児童が目的意識をもち自己決定する授業を展開し、各教科等で育成すべき資質・能力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善推進プラン・学力調査の結果を基に、各教科の課題を意識した授業を行った。</li> <li>目的意識をもち、自己決定をする学習には各教員が取り組もうと意識しているが、学習に対して主体性に課題が残る児童もいる。 保護者…83.0% (88.0% 5.0p↓) 児童…90.4% (92.0% 1.6p↓)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的意識をもち、自己決定する授業展開を引き続き行う。</li> <li>授業改善推進プランに基づいた授業展開を計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きたコンの活用が、思考の場面を減らしているのではないかと感じる。辞書を引くなどのことを大切にしてほしい。分かったことから何を考えさせるのか、分かったことの意味を考える学習になってほしい。</li> <li>基礎基本の定着度調査から苦手なところが分かる。それを生かした授業を展開してほしい。</li> <li>きたコンを使うだけでなく、ノートとパソコンのバランスを考えながら取り組んでもらいたい。AIに質問する力がつくような学習を期待する。</li> </ul>
	日常的にきたコン、ICT機器を活用した授業を展開し、学校図書館を活用した情報活用能力の育成と共に、デジタル・シティズンシップを育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月までにデジタル・シティズンシップ教育全体計画、年間指導計画を示した。</li> <li>ICTの日常的な活用、デジタル・シティズンシップの育成に関しては、概ね取り組むことができた。保護者、地域の認知・理解が低いことが課題である。</li> <li>読書に関しては、1/4の児童が保護者共に読書ができていないと認識していることが課題である。 ICT；保護者…75.7% (83.0% 7.3p↓) 児童…90.4% (-) 学校図書館；保護者…65.1% (64.0% 1.1p↑) 児童…65.2% (68.0% 2.8p↓)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者・地域の認知度を上げるために、公開授業でさらなる活用を行う。また、家庭学習での活用を図る。</li> <li>デジタル・シティズンシップ教育は、各教員が各教科等の関連を確認し、計画的に進める。</li> <li>学校図書館指導員との連携を強化し、計画的な学校図書館の資料の利活用を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル・シティズンシップ教育という言葉に馴染みがない。逆にICT機器を使うデメリットばかり目立っている。改めて大人向けに周知し、定義付けを行ってほしい。</li> <li>学校図書館指導員との連携とICT機器の使用の使い分けをはっきりさせ、保護者に周知してほしい。また、コミュニティ・スクールとして、ぶっくんと学校図書館指導員との連携も図ってほしい。</li> <li>学童クラブでの、学校図書館の本の取扱いについて再考したい。</li> </ul>
	児童が対話を通して課題解決を行うことのよさを実感し、思考力・判断力・表現力等の育成と共に協働的な学びの充実を図る研究を行う。(校内研究を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話を通して課題解決を行う授業展開をどの学年でも取り組んだ。しかし、児童の意欲の醸成や目指す児童像への到達は十分ではない。</li> <li>研究方法として講じた、他学級や他学年、専科での取組の共有ができていない。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践授業を互いに見合うことを継続する。</li> <li>研究テーマとしての継続の有無とは別に、対話を通して課題解決を行う児童を育てる実践は続けて取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤羽台のよさについての地域の方へのインタビュー活動を見ると、経験不足から一問一答になっているのではないかと感じた。</li> <li>会話のキャッチボールの機会と、場数を踏む場の設定をする。</li> <li>失敗を恐れずに取り組む姿勢を日常的な声掛けから意識付ける。</li> </ul>
	スポーツの楽しさを体験する日常の遊びや運動の取組を通して、体力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>拡大中休みを試行したが、運動する機会として十分とは言えない。</li> <li>体育的行事委員会を中心に、日常の体力向上の取組を企画したが、運動委員会の「ストラックアウト大会」1回のみであり十分ではなかった。 保護者…55.8% (74.0% 18.2p↓) 児童…82.7% (71.0% 11.7p↑)</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>拡大中休みは週1回に拡充する。</li> <li>運動スペースの拡充を含め、年間を通じた体力向上の取組を「(仮称)西の子体力向上推進プラン」として策定し実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育の授業ができているという前向きな発信をすべきだ。</li> <li>体を動かす楽しさを味わえる工夫(カードや空き教室を活用したバランスボールの設置など)をしてほしい。</li> <li>校庭を使ったことのない1、2年生は、今の運動頻度で満足している。</li> <li>現在の赤羽台西小学校の環境に順応しているため、遊びのレパートリーが少ないと思われる。</li> <li>桐ヶ丘体育館・東洋大学アリーナをどうにかして使用できないか。</li> <li>拡大中休みは継続したい。</li> </ul>
心が篤くなる学校	校内委員会で情報共有の効率化を図り、学校生活支援シートや個別指導計画に基づいた、児童のよりよい発達を目指した適切な支援を全校体制で行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内支援委員会を毎月実施し、支援を要する児童への速やかな対応につながった。</li> <li>全職員の共通理解を図ることが十分にできていないとは言えない。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員の共通理解を図る方法を年度当初に確認する。</li> <li>「個性と支援」の理解教育の本格的な実践、副籍交流の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「個性と支援」等の言葉の意味が地域に浸透していない。</li> <li>全校として取り組んでいることに意義がある。</li> <li>取り組んでいる実情等を、発信していく必要がある。</li> </ul>
	「桐ヶ丘子ども憲章」に基づいた指導により、規範意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「桐ヶ丘子ども憲章」に基づいた指導が十分にできていない。また児童の規範意識が醸成するには至っていない。 あいさつ；保護者…62.1% (69.0% 6.9p↓) 児童…76.2% (79.0% 2.8p↓) ルール；保護者…77.1% (-) 児童…81.6% (85.0% 3.4p↓)</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導に関わる基準を「桐ヶ丘子ども憲章」に基づき、再整理する。また、月目標や週目標についても内容やバランスを踏まえた見直しを行い、共通理解を図った指導を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「桐ヶ丘子ども憲章」について、地域の認知はあるが、保護者が知らない。</li> <li>青少年地区委員が声をかけても、黙っていることが多い。</li> <li>時世として知らない人への挨拶はしづらい。学校に関わりのある人は目印を付けると挨拶しやすいのではないかと感じる。</li> <li>子どもだけでなく大人も挨拶をする人が少なくなっている。</li> <li>あいさつ運動の復活をしてもいいのではないかと感じる。</li> </ul>
	「学校いじめ防止基本方針」を見直すとともに、いじめの問題について未然防止と発生時に組織的に「即対応」を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活アンケートの結果に基づいた丁寧な聞き取り、いじめ防止対策委員会での検討、生活指導夕会での情報共有、いじめ研修の実施、WEBQ「要支援群」への声掛け等を確実に実施し、即対応を組織的に行っている。 保護者…57.3% (-)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめについての未然防止、「即対応」を継続して行っていく。</li> <li>ふれあい月間の趣旨、学校の取組を学校だよりに掲載し、理解啓発を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員Aの自己評価の評価基準が分かりにくい。</li> <li>保護者に我が子の心配毎を確認するアンケートがあるとよい。</li> <li>児童への聞き取りの仕方をマニュアルがあるとよい。</li> </ul>

心が篤くなる学校	<p>計画に基づいた毎月の安全指導を確実に 行うだけでなく、 様々な教材を効果的に活用した安全教育、防災教育を実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の安全指導は行われている。</li> <li>「校内・校外安全指導年間計画」が、様々な教材を効果的に活用した計画になっていない。 保護者…86.4% (86.0% 0.4p↑) 児童…88.1% (—)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「校内・校外安全指導年間計画」を「交通安全・生活安全・災害安全」の観点から再編し、計画に基づき月の最初の日を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災について、授業で扱いたい。</li> <li>新型コロナ流行以前、各自治会と赤羽台西小学校が協力して防災活動を行っていたが、縮小された。実際に児童が防災活動を体験することができる機会がほしい。</li> <li>学校内の防災装備について、児童が把握している状態を作りたい。</li> </ul>
	<p>異年齢交流を、なかよし班活動などを通して実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ねよい。</li> <li>きたコンを使った遊びは、個人作業になってしまいがちであった。</li> <li>活動が少ないため、名前すら覚えずに終わってしまうことがあった。 保護者…86.8% (85.0% 1.8p↑) 児童…86.8% (87.0% 0.2p↓)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の時程の中で、なかよし班を活用できる活動を検討する。</li> <li>きたコンは用いない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きたコンを用いないことは効果的であり、自己評価を支持する。</li> </ul>
互いの信頼が厚くなる学校	<p><u>コミュニティ・スクールとして、互いに育てる赤西小の児童について「熟議」を大切にされた学校運営協議会の運営の充実を図る。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の参加率は上がった。</li> <li>学校運営協議会の仕組み等については学校要覧に掲載し、10月に全家庭に配付した。学校運営協議会の記録は実施後の学校だよりに掲載した。</li> <li>しかし、保護者に「コミュニティ・スクール」「運営協議会」「熟議」で何ができているのか、具体的なイメージが伝わっていない。 保護者…79.1% (88.0% 8.9p↓) 地域…77.0% (—)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールとは何か、学校運営協議会の取組内容についての広報をさらに工夫する。保護者会等での説明、学校運営協議会委員に道徳授業地区公開講座での協議への参加など、出張していただく場面を多く設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の学校とコミュニティ・スクールの違い、コミュニティ・スクールであるメリットが不明。過去の3点が効果的であった。 1 上り旗 2 コミュニティ・スクールの活動をまとめた紙面の配付 3 地域の祭りにコミュニティ・スクールとして児童が参加し、利益を被災地に募金すること。 特に3つめに関しては、児童が主体的に参加することでより効果的。他にも児童が歩道に花を植えるなど。</li> <li>「熟議」を保護者会などで実際に体験することでよさが伝わるのではないかな。</li> </ul>
	<p>スクールコーディネーターと連携し、学校の教育活動に外部人材や外部機関を積極的に活用し、各教科等の年間指導計画、学習のねらいに沿った学習活動を展開する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年によって、スクールコーディネーターの活用の差が大きい。</li> <li>1年はスクールコーディネーターを紹介していないが、幼稚園・保育園保と関わる機会は多かった。 保護者…77.7% (87.0% 9.3p↓) 地域…84.7% (—)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めに各学年で年間指導計画を基に、低・中・高の担当と打合せを行う。</li> <li>総合的な学習の時間の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必ず外部人材を活用しなければならないわけではないと思う。</li> <li>活動に保護者の方に参加してもらおうとよい。</li> <li>保護者に宣伝したい。特に吹奏楽部が現在どのような活動をしているかを多くの方に知ってほしい。</li> <li>活動の実績や子どもの声をアピールすべき。学校HPで写真を載せてほしい。</li> </ul>
	<p>学校・学年だよりなどの発行物の内容の充実やtetoruの適切な配信を行うとともに、<u>学校ホームページの更新を恒常的に</u>行い、学校からの発信力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙ベースの配付が減ったことによって配付する時間も紙も削減できた。</li> <li>児童の様子を伝えるホームページの更新がなかった。 保護者…84.0% (88.0% 4.0p↓) 地域…100% (—)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新を確実に実施する。</li> <li>年度当初に伝えられる情報は伝える。学年だよりは予定の変更等を伝えることに加え、児童の様子を積極的に発信する内容に改編する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリ配信になったことで、端末から内容を好ましいタイミングで読むことができるようになった。</li> <li>紙媒体が好ましい方には、個別に対応することを検討する。</li> <li>ホームページの形式が変わったことで、運用方法を再度確認してから取り組む必要がある。</li> <li>tetoruでは児童の様子が知れると嬉しい。(課外授業など)</li> <li>GIGA担当は各学年に1人居てよい。</li> <li>児童の様子が伝わる写真を掲載してほしい。</li> </ul>
	<p>校務支援システムを活用した校務改善、環境に配慮した教育環境の整備、<u>会議の精選や見直しなどを</u>含め、<u>教員の働き方改革の視点から業務の改善を図る。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>C4thの掲示板を活用できているが、検索が難しい面がある。</li> <li>会議の精選が進んでよいと感じる一方、回数や頻度について教職員の意見が大きく分かれている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>検索しやすいキーワードを活用する。</li> <li>会議の回数は現状通りとするが、間隔を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての子どものトラブルを担当が対応するのは負担ではないか。直接担任に相談しづらい場合もある。保護者同士のつながりが作れていないため、誰に、どのような手順で、相談ができるのかが分からない。</li> <li>相談の窓口を1つ作って、全てそこに集約する。</li> <li>子どもは相談室へ自由に行くことができるが、中休みや昼休みをつぶしてまで行こうと思わない=行けない。</li> <li>地区委員会の行事が週末や夜になってしまい申し訳ない。しかし、子どもたちも先生が来てくれると嬉しい。</li> </ul>

○今年度の重点目標項目は下線で示しています。

○取組状況の項目に掲載している割合の表記は、学校評価に資する教育活動アンケートの関連項目の肯定的な回答の割合を示しています。( )内は昨年度の同種質問の割合と昨年度との増減を示します。(—)は昨年度質問なし。

○自己評価は右の基準で行いました。→A：十分に達成した

B：概ね達成した

C：達成がやや不十分である

D：達成が不十分である